

バイスタンダーのこころのケア ～勇気ある行動に対して～

岡山県 岡山市消防局

はじめに



管内図

岡山市は、岡山県の南部、岡山平野の中央に位置し、災害が比較的少なく、温暖な気候に恵まれた地域です。平成21年4月には、全国で18番目となる政令指

定都市へと移行し「水と緑が魅せる心豊かな庭園都市」「中四国をつなぐ総合福祉の拠点都市」をその将来都市像として掲げ、さらなる飛躍を目指しております。

岡山市消防局の管轄面積は1,058.65km²、管轄人口は71万4,402人（平成24年4月1日）であり、消防局は、1局（6課）、5署、14出張所、1救急ステーション、職員666名（定数714名）の体制で消防防災に取り組んでいます（平成24年4月1日現在）。

（管轄には消防事務を受託している吉備中央町分を含みます。）

バイスタンダーフォローアップの取組開始とその背景

救急隊が到着するまでの間、傷病者に対する応急手当は、善意のバイスタンダーに依存している状態です。そのため、救命率向上を目指し、消防機関をはじめ様々な団体が応急手当の普及啓発を行っています。近年、市民による心肺蘇生法実施及び除細動（PAD）等により、CPR状態の傷病者が社会復帰した事例もよく耳にするようになってきました。

しかし、救急現場でバイスタンダーが心肺蘇生を実施する場合を考えてみてください。救命の資

機材もなく、医学的な予後の知識もなく、自分の行った手技が正しかったかどうかを判別してくれる体制もない中で、傷病者の命をたった独りで任されるといった、救急隊の活動条件と比べても大変不安を感じる条件のもと、バイスタンダーは心肺蘇生法を実施することになります。

そのため、バイスタンダーが救急現場で傷病者にCPRを実施した場合、心的ストレスを受ける可能性があることは容易に想像がつきます。しかし、そのストレスをサポートするシステムは殆ど存在していないのが現状です。

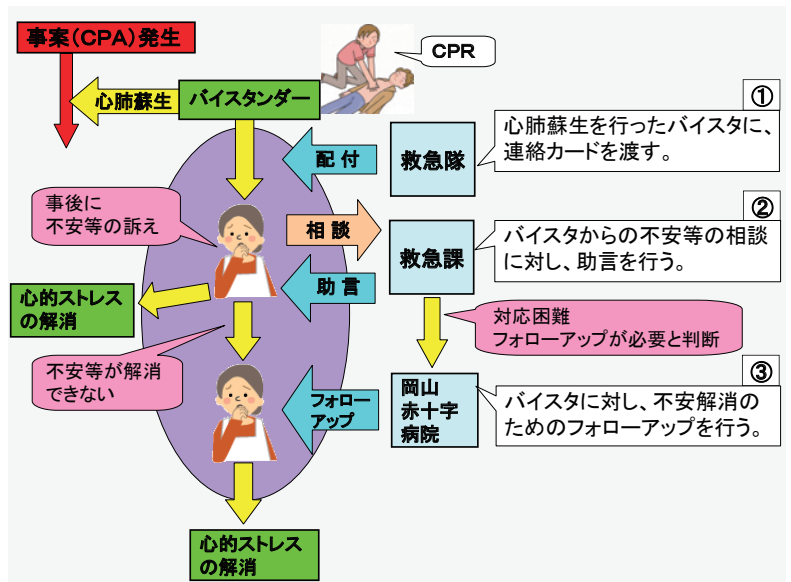
そこで、平成23年1月、岡山市消防局は、バイスタンダーフォローアップの取組を開始しました。

「バイスタンダーフォローアップ」とは、バイスタンダーの心的ストレスをサポートする取組の名称であり、取組に際し、岡山赤十字病院にバックアップしていただいています。

バイスタンダーフォローアップの概要

- ①救急現場で、傷病者に心肺蘇生を実施しているバイスタンダーに対し、連絡カードを配布する。
- ②事後、バイスタンダーからの心的ストレスについての相談を、岡山市消防局救急課で受け、不安を感じているバイスタンダーに対し助言を行う。
- ③その後、必要ならば、岡山赤十字病院がフォローアップを行う。

取組の概要



連絡カード

応急手当を行ってくださった方へ
(岡山市消防局)

救急隊が到着するまでの間、勇気を持って応急手当にあたっていただき、ありがとうございました。

※救急現場において、目撃したこと、応急手当をおこなったことでなにか不安なこと等がありましたら、裏面の相談窓口にご連絡ください。

相談窓口

岡山市消防局 救急課救急指導係
電話番号：086-234-9977
(平日の8:30から17:00まで)

協力病院：総合病院 岡山赤十字病院

取組状況

現在、取組を開始し2年半が経過していますが、連絡カードの配布状況を見てみると、平成23年は130名、平成24年は173名となっています。不安の相談はこれまでに2件ありましたが、幸いにも病院でのフォローアップが必要となりませんでした。この相談により、心的ストレスを受けるバイスタンダーの存在が確認され、取組の必要性が明確となりました。

課題としては、2年間で48%となっている連絡カードの配布率を上げることです。配付困難の理由として「救急活動中に配付のための時間がとれない」等が挙げられていることから、職員への運用に関する教養も重要になると考えています。

また、応急手当普及啓発用のパンフレットに当該取組を掲載するなどしており、今後市民への広報にも力を入れていく方針です。

県下への取組の広がり

バイスタンダーフォローアップの取組は、岡山県下で広がりを見せています。岡山市消防局に続き、岡山県南東部地域の4消防本部が、平成25年1月から取組を開

始しました。取組内容は岡山市消防局と同じ方法であり、やはり、岡山赤十字病院にバックアップしていただいています。

取組に対する意識調査アンケート

この春、取組のさらなる効果的な運用を目的とし、岡山県下全14消防本部の救急救命士に「意識調査アンケート」を実施しました。対象は救急現場で活動する全救急救命士387名であり、370名からの回答を得ました(回答率95.6%)。

この調査結果からも、心的ストレスを受けるバイスタンダーの存在が確認され、約85%の救命士が、バイスタンダーの心的ストレスをサポートする取組が必要であると回答しています。

また、取組期間が長い岡山市消防局と、最近取組を開始した県南東部の4消防本部、また、未だ取組を実施していない県下9消防本部を比較すると、調査結果に違いが出ているため、実際に取組を継続することで、救急救命士の意識変化が起きていると考えられます。

例えば、連絡カードの配付に際し、岡山市消防局の救急救命士は、他の消防本部の救急救命士に比べ、バイスタンダーや関係者の心情、気持ちに特に気を配ることが分かりました。岡山市消防局では、バイスタンダーフォローアップの取組を開始して以降、救急活動に対するクレームはなく、これは、救急救命士が救急現場で関係者の心情に気を配ることにより、接遇が良くなっているためではないかと思われ、バイスタンダーフォローアップの予期していなかった効果ではないかと考えています。

さらに、今回の調査で、様々な課題や注意点、運用の工夫例が示されました。

今後

バイスタンダーフォローアップの取組を継続していく上で、今回のような調査を定期的実施し、運用に改善を加えながら、一人でも多くの勇気あるバイスタンダーの心の不安を取り除くような体制作りをすると共に、バイスタンダーの心的ストレスの存在やフォローアップの必要性を全国に発信していく考えです。